

さいたま市文化財時報

かや 榎りぼーと

第68号

平成29年度 埋蔵文化財の調査・展示紹介

『埋蔵文化財』とは、様々な文化財のうち、地中に「埋蔵」された「文化財」のことをさします。埋蔵文化財は、我々の祖先が造り出したものが地中に保存された、当時の生活を知るための重要な資料であり、長い年月をかけて育まれてきた歴史や文化を伝える貴重な存在です。

さいたま市内にも、旧石器時代から近世のものまで、様々な埋蔵文化財が遺されています。現在、市内の各地には、「埋蔵文化財包蔵地(埋蔵文化財の存在が知られている土地)」が1,128か所確認されています。埋蔵文化財は、一度地中から掘り出してしまうと、二度とは元に戻せないものであるため、できるだけ埋もれたままの状態を保存してゆくことが望ましいのですが、土木工事などで壊れてしまうことが避けられない場合には、記録による保存を目的とした「発掘調査」を実施します。今年度2月までに実施された発掘調査は、20件ありました。

また、さいたま市では、平成28年の10月から、岩槻区に所在する国指定史跡「真福寺貝塚」の整備を目的とした学術的な発掘調査を行っています。

今回は、これらの発掘調査の中から主な調査成果をご紹介します。

しんぶくじ 真福寺貝塚の調査……………〈岩槻区〉

東武野田線岩槻駅の南東約1.6km、岩槻区城南3丁目に所在する遺跡です。

平成28年度から調査を行い、今年度は6月から12月まで実施しました。

今年度の調査は昨年度に引き続き、真福寺貝塚の東側、貝塚や住居跡が遺されたマウンド状の高まり部分と、新たにその内側の窪地状の地形部分で行いました。高まりからは、縄文時代後期前～後葉の貝塚や土坑、柱穴等を検出し、高まり内側の窪地内からは、縄文時代晩期中頃の土坑と累積した同時期の土層、および平安時代の住居跡を検出しました。この調査により、窪地内には真福寺貝塚を最後に利用した縄文人の活動痕跡が存在することと、平安時代に再び居住を伴う活動が行われたことが新たにわかりました。

なお、調査期間中、市内の小学生を対象に体験発掘を実施し、骨製の簪かんざしの一部や石製の小玉など貴重な遺物が発見されました。



▲貝塚内から出土した土器と獣骨(真福寺貝塚)



▲城南小学校体験発掘の様子(真福寺貝塚)

まえくほ 前窪遺跡の調査 …………… 〈浦和区〉

JR 北浦和駅の北東約2.3km、浦和区木崎5丁目に所在する遺跡です。今回は前窪遺跡での12回目の調査になります。個人住宅の建設に先立ち、さいたま市教育委員会が平成29年6月から9月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代後期～晩期の住居跡2軒および同時期の土器や石器をはじめとする各種の遺物を検出しました。

縄文時代の住居跡は一部重複しており、西側の住居跡の壁際には焼土帯が巡り、その下からは炭化した敷物の痕跡が見つかりました。また東側の住居跡からは、土偶や石剣などの祭祀遺物や土製耳飾り等の装身具とともに、焼けたシカの角や骨角器など多種多様な遺物が見つかりました。

今回、住居跡から発見された敷物の痕跡は、縄文時代では類例が少なく貴重な発見となりました。



▲縄文時代晩期の住居跡(前窪遺跡)

焼けたシカの角や骨角器など多種多様な遺物が見つかりました。

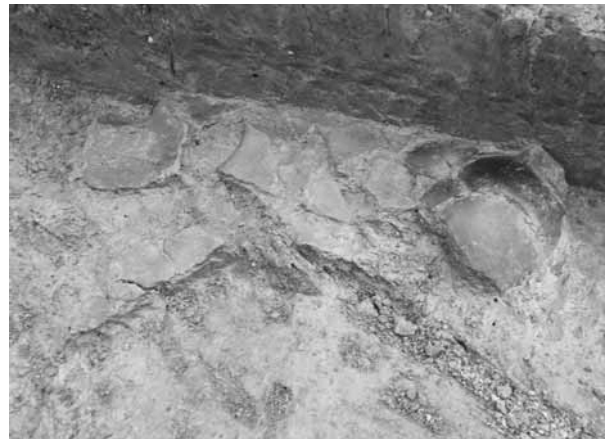
しらくわみやこし 白鍬宮腰遺跡の調査 …………… 〈桜区〉

JR 与野本町駅の北西約2km、桜区大字白鍬に所在する遺跡です。今回は白鍬宮腰遺跡での16回目の調査になります。個人住宅の建設に先立ち、さいたま市教育委員会が平成29年8月から9月にかけて実施しました。

調査の結果、古墳時代前期の住居跡2軒、土坑2基を検出しました。住居跡内からは炉跡(煮炊きをした場所)を検出しました。

今回調査した地点の北側に白鍬塚山古墳(市指定史跡)がありますが、その周溝(古墳の周りを囲っている溝)は今回の調査地点まで伸びていないことが判明しました。

今回の調査により、古墳時代の集落が包蔵地の南側まで広がっていることが明らかになりました。



▲古墳時代の住居跡から出土した土器(白鍬宮腰遺跡)

にしあす ましゆく 西遊馬宿遺跡の調査 …………… 〈西区〉

JR 指扇駅の南約1.7km、西区大字西遊馬に所在する遺跡です。今回の調査が、西遊馬宿遺跡で初めての調査になります。個人住宅の建設に先立ち、さいたま市教育委員会が平成29年10月から11月にかけて実施しました。

調査の結果、古墳時代～平安時代の住居跡4軒、土坑17基、古代～近世の溝2条を検出しました。

検出された住居跡や土坑の一部は重複しており、自然堤防という限られた範囲の中で、古墳時代から現在に至るまで頻繁な土地利用が行われていたことが明らかになりました。



▲古墳時代～平安時代の住居跡(西遊馬宿遺跡)

そばがいと 側ヶ谷戸貝塚の調査……………〈大宮区〉



▲縄文時代前期の住居跡に堆積した貝塚
(側ヶ谷戸貝塚)

JR 大宮駅の南西約2.5km、大宮区三橋4丁目に所在する遺跡です。

今回は側ヶ谷戸貝塚での11回目の調査になります。分譲住宅の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成29年2月から6月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代前期の住居跡6軒、土坑1基、古墳時代前期の住居跡2軒、溝3条、縄文時代前期～後期の土器、石器、古墳時代の土器等の遺構・遺物を検出しました。縄文時代前期の住居跡のうち1軒は、ヤマトシジミを主体とする貝塚を伴っていました。

したて 下手遺跡の調査……………〈西区〉



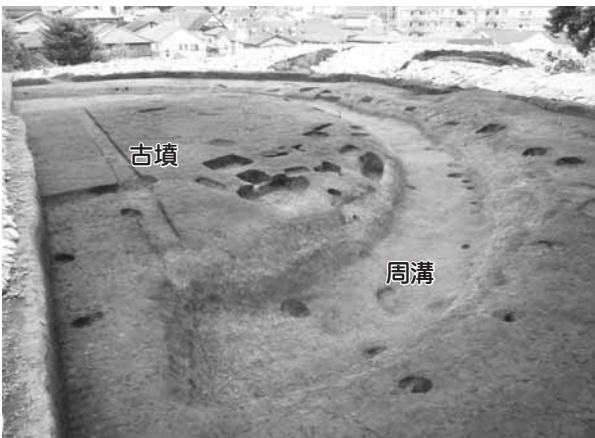
▲古墳時代の住居跡から出土した土器(下手遺跡)

JR 大宮駅の西約2.5km、西区三橋5丁目に所在する遺跡です。

今回は下手遺跡での2回目の調査になります。分譲住宅の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成29年6月から8月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代中期の住居跡1軒、土坑1基、古墳時代後期の住居跡1軒、縄文時代早期～後期、古墳時代後期の土器、石器などの遺構・遺物を検出しました。古墳時代後期の住居跡に伴う貯蔵穴内からは完形の土器が出土しました。

ほんもく 本空遺跡の調査……………〈桜区〉



▲古墳および周溝(本空遺跡)

JR 南与野駅の南西約0.6km、桜区中島3丁目に所在する遺跡です。大宮台地日進与野支台の西縁、南側に張り出す舌状台地の先端部に位置しています。

今回は本空遺跡での13回目の調査になります。宅地造成工事に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成29年5月から11月にかけて調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代の住居跡3軒、土坑3基、古墳時代の古墳周溝1条、土坑5基、中世の土壙墓62基、火葬墓11基、土坑5基、溝1条、縄文時代、古墳時代、中世の遺構・遺物を検出しました。

古墳時代の周溝からは、人物埴輪4体と馬形埴輪1体がまとまって出土し、さらに円筒埴輪が周囲に点在していました。市内で人物や馬形の埴輪を伴う古墳は少なく貴重な発見となりました。

埋蔵文化財の展示紹介

さいたま市では、埋蔵文化財の調査のほか、市民の皆様へ埋蔵文化財を紹介し、理解を深めていただくための活動も行っています。

平成29年9月から平成30年1月まで、市内の発掘調査の成果をいち早く紹介する「最新出土品展」を、さいたま市立博物館(大宮区)、イオンモール浦和美園(緑区)、春野図書館(見沼区)、岩槻郷土資料館(岩槻区)の各会場で開催しました。今回も公共施設のほか商業施設で開催したことで、より多くの方にご来訪いただきました。

9月9日には「さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会」をさいたま市立博物館で開催し、市内の発掘調査成果を各調査担当者が発表しました。発表会終了後は、市立博物館の特別展示室で開催していた「最新出土品展」にて、発表を行った調査担当者が出土品の展示解説を行いました。



▲最新出土品展(イオンモール浦和美園)

お知らせ

□さいたま市指定無形民俗文化財「南部領辻の獅子舞」の公開

平成30年5月13日(日)〔予定〕(雨天中止)

10時～ 鷲神社(緑区南部領辻2941)

13時～ 南部領辻地区内

春の公開は、鷲神社を出発し、南部領辻地区内を巡る村祈禱があります。

※天候等により日程が変更となることもありますので、詳しくはさいたま市のホームページをご覧ください。文化財保護課(☎829-1723)までお問合せください。実施日当日のお問い合わせは、さいたまコールセンター(☎835-3156)までお願いいたします。



▲南部領辻の獅子舞

□国指定特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」の案内

「田島ヶ原サクラソウ自生地」(桜区田島桜草公園内)において、ボランティアによる案内を4月22日(日)まで毎日実施しています。

サクラソウをはじめ、ノウルシやヒキノカサなどの希少種を含む多くの野草をご覧ください。

*案内は9時30分から16時まで。雨天中止。

開花情報はさいたま市のホームページでお知らせしています。



▲サクラソウ